

長谷川 望牧師

\* 本日は母の日。星野富弘さんの詩。「ぺんぺん草」。

神様がたった一度だけ この腕を動かしてくださるとしたら、母の肩をたたかせてもらおう。風に揺れる ペンペン草の実を見ていたら そんな日が本当に来るような気がした。母にここから感謝したい。

\* 20世紀の偉大な伝道者であったビリーグラハムは先日99歳で天に召された。膨大な数の人に福音を宣べ伝えた。彼がいつも伝えたことは「Born again」。人は新しく生まれなければならない、生まれ変わることができる、ということであった。

イスラエルの指導者であり、エリートであったニコデモはイエスが行われるしるし（救い主である証拠の奇跡）を見て、この人には何かある、神がともにおられる、と関心を持った。それで、夜、こっそりとイエスを訪ねた。「イエスは答えて言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。人は新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。』」（ヨハネ3：5）彼には理解できないことばであった。イエスは続けていわれる。「人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。」（ヨハネ3：5）水は清めの水であるが、ここでは「霊」によることが強調されている。ローマ8：5～9にあるように、人間は生まれたままでは「肉的存在」であり、神に反抗するものである。御霊により「霊的存在」になると、いのちと平安が与えられ、神を喜ばせることができるのである。

\* 「神の国」すなわち「天国」を見、天国に入り、天国の住人になるためには、霊によって生まれなければならない。それには、どうしてもイエスキリストを信じる信仰が必要である。信仰により御霊が私の中に住んでくださるからである。「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」（ヨハネ3：14～15）ニコデモは最初イエスの言われること理解できなかったが、後に、イエスを弁護し、最後はイエスのなきがらを葬ったと記されているほど、信じるものに変えられていった。私たちも、イエスを自分の救い主と信じた者はすでに肉の人ではなく、霊の人として新しく生まれたのである。また、御霊を私のうちに持っているので、神の国を見ているし、これからも永遠に見続けることができる。その恵みに感謝したい。